

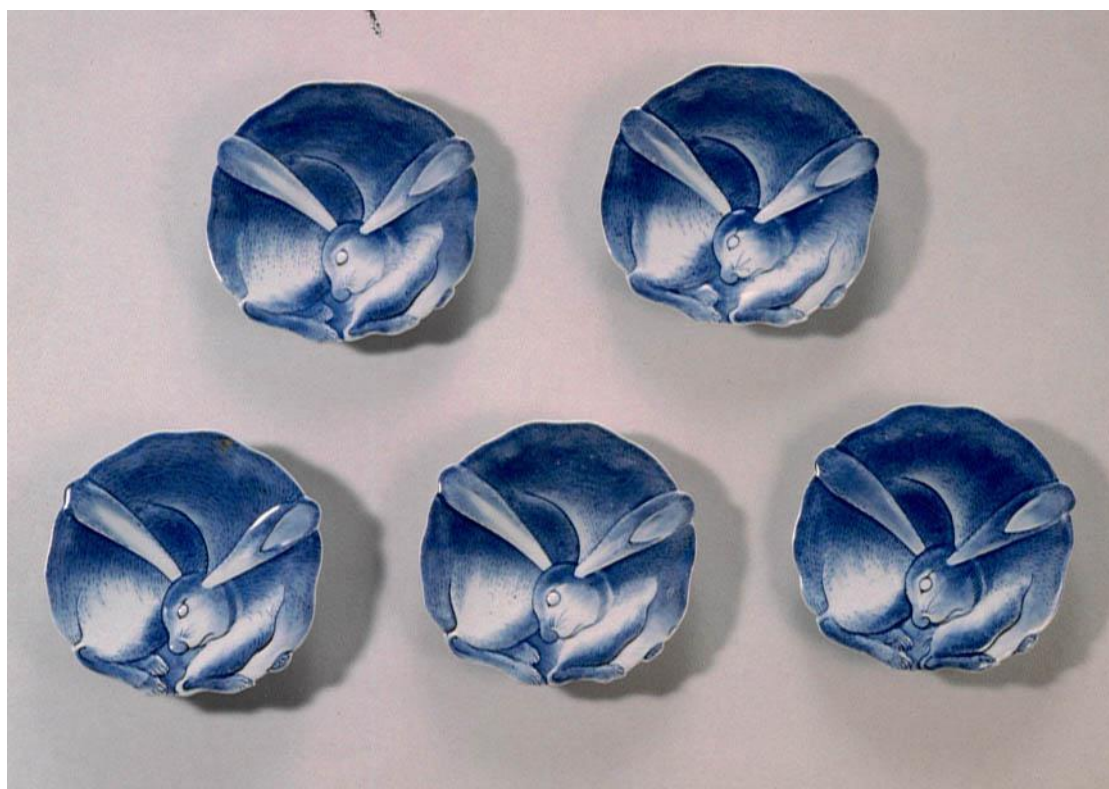


プレスリリース

小さな伊万里焼展

ちよく むこうづけ
～小皿・猪口・向付～

2013年7月6日（土）～9月23日（月祝）



画像② 染付 兎形皿



TOGURI MUSEUM OF ART
戸栗美術館



広報用写真

※すべて戸栗美術館所蔵品。以下の展示予定作品
の写真データ等をご用意しております。ご掲載
の際は注意事項をご覧の上、別紙の写真借用申
請書をお送り下さい。



画像① 色絵 梅花丸文 分銅形皿



画像③ 白磁 桔梗花形向付



画像⑤ 青磁染付 波文 舟形皿



画像④ 色絵 梅竹栗鶉文 皿



画像⑥ 染付 鳥形香合

■画像①

色絵 梅花丸文 分銅形皿 伊万里（古九谷様式）

江戸時代（17世紀中期） 高 3.3 cm 口径 13.0×9.9 cm 高台径 8.4×4.2 cm

分銅形に糸切り成形した変形皿。器面には型押による尖った葉先の花文様が陽刻されているが、これと同様の陶片が楠木谷窯から出土している。表には染付と色絵を併用して祥瑞風の四方禪文と丸文と梅花文を描き、裏面は牡丹唐草文を描く。

■＜表紙＞画像②

染付 兎形皿 伊万里

江戸時代（17世紀後半） 高 2.6 cm 口径 15.0 cm 高台径 7.5 cm

図柄に合わせて縁を変形させ、陽刻と染付を用いて身体を丸めた兎を表現した皿。安定した発色の染付で兎の毛並みや髭までも繊細に描く。精密な絵付けと、薄い上質の素地がこの器の印象を上品なものにしている。同時代には魚や鳥などをかたどった変形皿も多い。

■画像③

白磁 桔梗花形向付 伊万里

江戸時代（17世紀後半） 高 6.6 cm 口径 9.7 cm 高台径 4.1 cm

桔梗花形の鉢。型打ち成形によって整えられた口縁の微妙なラインと、素地の薄さは、さながら可憐な花びらのよう。澄んだ白は色絵素地にもなり得るが、これは白磁で完結し、その繊細な形を際立たせている。

■画像④

色絵 梅竹栗鶉文 皿 伊万里（柿右衛門様式）

江戸時代（17世紀後半） 高 3.3 cm 口径 15.1 cm 高台径 9.5 cm

柿右衛門様式の完成された姿の中皿。縁錆で引き締められた画面に、濁手の余白を残して、梅竹、栗、柴垣に集う鶉の図を描く。鶉の羽や草花の表現に柿右衛門様式ならではの細かく丁寧な絵付けが見られる。良好な濁手の膚が光を適度に反射して上絵具の色を明るく艶やかなものにしている。裏面は無文で高台内に目跡を1つ残す。

■画像⑤

青磁染付 波文 舟形皿 伊万里

江戸時代（17世紀後半） 高 6.6 cm 口径 17.2×8.2 cm 高台径 7.2×6.3 cm

舟の形にかたどり、見込半分染付で波文を描いた変形皿。染付の部分だけ透明釉を掛け、その他は全体に青磁釉を掛けた青磁染付である。5客で伝世しているが、波文の描き方がそれぞれ異なっているのが面白い。

■画像⑥

染付 鳥形香合 伊万里

江戸時代（17世紀後半） 通高 5.4 cm 長 6.9 cm 底径 4.4 cm

茶器として作られた水鳥形の香合。シンプルな器形ではあるが、首から口にかけての線や、染付で立体的に表現された羽の部分など非常に丁寧に作られている。内側部分は中心に仕切りがあり、内部までしっかりと釉が施されている。小さいながらもユーモアと存在感にあふれた優品である。

以上を含む、約 80 点を展示予定。



展覧会概要

日本人は、世界でも稀に見るほど「小さくかわいらしいもの」に特別な関心と愛着を寄せていると言われています。伊万里焼にも、小さくかわいらしいうつわが作られており、江戸時代の人々がうつわを愛で、食を楽しんだ様子を伺い知ることができます。

特に板状にした粘土を型に押し当てて変形させる〈糸切り成形〉技法が発達した17世紀中期から後半ごろには、花や葉の形をはじめ、鳥や魚、蝶々、富士山、扇などさまざまな形をした、目にも楽しい変形小皿が多く作られました。中には、限られた小さなスペースを画面として、奥行きのある壮大な文様が描かれている作品もあります。

今展示では、伊万里焼の小皿や猪口、向付など、小さなうつわの中に凝らされた趣向と工夫に注目し、愛すべき小品の魅力をご紹介します。



展示詳細

◆小皿・猪口・向付

17世紀初頭に佐賀県の有田地方で始まった伊万里焼では、初期の段階から丸形のほか口縁を花の形にかたどった輪花形や稜花形のりんか小皿が作られています。当初は、色絵の技術がなかったため、白地に青い顔料で下絵付けをした染付や、青緑色に発色する釉薬を施した青磁が主流でした。

17世紀中期頃になると糸切り成形や型打ち成形などの技法を用いて、うつわの輪郭を大きく変化させた変形小皿も数多く生み出されるようになりました。この頃から染付に加え、カラフルな上絵付けを施した色絵の技術が広まっています。

皿以外にも、盃形や朝顔形、筒形などの猪口のほか、丸形や角形、輪花形の小ぶりの鉢など、型打ち成形が盛んになったことによってさまざまな器形のうつわが作り出されました。

これらの猪口や小鉢、小皿の多くは向付として、また銘々皿として使用されたと考えられます。使い勝手が良くてのひら掌にも収まる小さな猪口は、おかずを盛る以外にも酒器や湯呑みとして、また薬味や調味料を入れる万能なうつわとして幅広く用いられました。18世紀後半、食生活の変化とともに庶民の間で蕎麦切りが流行すると、筒型の猪口を蕎麦のつけ汁用として転用し始め、それに応じて蕎麦専用の「蕎麦猪口」も作られるようになります。

多種多様な器形や意匠をもつこれらの小さな伊万里焼は、季節や料理に合わせてさ

まざまなシーンに取り入れられ、江戸の人々を楽しませたことでしょう。

今展示では、17世紀前期から江戸時代を通して作られた“かわいらしい”伊万里焼の小皿・猪口・向付を中心に展示いたします。

※「向付」とは、懷石料理で^{なます}膳や和え物などを盛り、膳の向こう側に配す小型のうつわのこと。

◆小さな伊万里の魅力

今展示では、小さくかわいらしい伊万里焼の魅力を、さまざまな視点からご紹介いたします。



画像②

【限られたスペースに凝縮された技法】

伊万里焼では、初期の段階からロクロを用いた成形方法が取り入れられています。17世紀中頃に技術が進歩すると、ロクロ成形後の粘土を型にかぶせて叩き、形を変形させる型打ち成形や、板状にした粘土を型に押し当て余分な部分を糸で切り取る糸切り成形の技法で、動物や植物などのさまざまな形をした変形皿が作られました。

また染付では、青色のコバルト顔料を含ませた筆で文様を描くのが一般的ですが、顔料を吹き付けて点描を表す吹き墨や、文様を透かし彫りにした型紙を器面に当て、上から絵具を塗り込む型紙刷りなど、じっくりと観察すると小さなうつわの限られたスペースの中にさまざまな技法を取り入れていることがわかります。

こちらのコーナーでは、成形方法や絵付け技法の解説を加えながら、小さな伊万里焼に見られるさまざまな技術をご覧ください。

【温かみのある風合い 一^{さびゆう}銹釉のうつわー】

伊万里焼には染付や色絵、青磁や白磁のほか、「銹釉」という陶器にも似た表情の作品があります。銹釉とは、10%ほどの鉄分を含むことによって黄褐色～黒褐色に発色する^{ゆうやく}釉薬のこと。鉄分の含有量や、焼成時の窯中の酸素量などによってさまざまな色味や質感のうつわが作られています。初期の伊万里焼から見られますが、17世紀中期頃には需要が増し、主に茶懷石道具として用いられました。

こちらのコーナーでは、硬質なイメージを持つ「磁器」でありながら温かみのある風合いの銹釉の向付・小皿・碗などをご紹介します。



銹釉染付 双鶴文 輪花皿
伊万里
江戸時代（17世紀中期）

【食器以外の小さな伊万里焼】

伊万里焼では実用的な食器類が中心に作られています。茶道具や化粧道具などのように食器以外の目的で用いられたうつわも少なくありません。

こちらのコーナーでは、茶の湯の席で用いられた香炉や茶入れ、動物をかたどった愛らしい形の香合、紅皿や油壺といった化粧道具など、さまざまな用途の小さな伊万里焼をご紹介します。



染付 唐草文 人物鈕茶入
伊万里
江戸時代（17世紀前期）

※なお、概要の要約が必要な場合は以下の文章をご参照ください。

■ 33 word

17世紀前期から江戸時代を通して作られた伊万里焼の小さなうつわを展示。

■ 163 word

世界でも稀に見るほど「小さくかわいらしいもの」に特別な関心と愛着を寄せている日本人。伊万里焼にも、小さくかわいらしいうつわが作られており江戸時代の人々がうつわを愛で、食を楽しんだ様子を伺い知ることができます。今展示では、伊万里焼の小皿や猪口、向付など、小さなうつわ中に凝らされた趣向と工夫に注目し、愛すべき小品の魅力をご紹介します。



展示解説

展示期間中、第2週・第4週の水曜日と土曜日に、当館学芸員による展示解説を行います。予約は不要です。入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください。

■第2・第4水曜 午後2時～ （7月10・24日、8月14・28日、9月11日）

■第2・第4土曜 午前11時～ （7月13・27日、8月10・24日、9月14日）

※各回、約40分～50分ほどの解説になります。

※団体でご来館のお客様への展示解説も承っております。電話による事前予約制。

お気軽にご連絡くださいませ。（電話：03-3465-0070）



外国語展示解説（中国語・英語）

展示期間中、第2週・第3週の木曜日に、当館学芸員による外国語の展示解説を行います。参加ご希望の方は事前にお申込み下さい。

■中国語 第2木曜 午後2時～ （7月11日、8月8日、9月12日）

■英語 第3木曜 午後2時～ （7月18日、8月15日、9月19日）

※ご希望により随時外国語ミュージアムツアーを承りますので、お問い合わせ下さい。



敬老の日シニア無料観覧

9月16日（月祝／敬老の日）は、65歳以上の方は入館無料となります。受付にて、年齢のわかるものをご提示ください。



戸栗美術館 概要

戸栗美術館は、当館創設者・戸栗亨が長年に渡り蒐集しました陶磁器を中心とする美術品を永久的に保存し、広く公開することを目的として、1987年11月に、旧鍋島藩屋敷跡にあたる渋谷区松濤の地に開館しました。コレクションは伊万里、鍋島などの肥前磁器および中国・朝鮮などの東洋陶磁が主体となっており、日本でも数少ない陶磁器専門の美術館として活動しています。



会場 : 戸栗美術館

開館時間 : 10:00～17:00（入館受付は16:30まで）

休館日 : 月曜日 ※月祝の場合は開館、翌日休館のため、7月15日・9月16日・9月23日（月祝）は開館、7月16日・9月17日は休館。

入館料 : 一般 1,000 円／高大生 700 円／小中生 400 円
（団体 20 名様以上で 200 円割引）

交通 : 渋谷駅ハチ公口より徒歩 15 分／京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩 10 分
※当館には駐車場・駐輪場はございません。

■次回展示案内

10月5日（土）～12月23日（月祝）

『館蔵 青磁名品展一翠・碧・青一』

■展覧会に関するお問い合わせ

公益財団法人戸栗美術館
広報担当宛て

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-11-3
TEL : 03-3465-0070 FAX : 03-3467-9813
URL : <http://www.toguri-museum.or.jp/>
E-mail : kouhou@toguri-museum.or.jp





アートサークルのご案内

陶磁器に親しみ、美術館をより楽しんでいただくために、会員制のアートサークルを設けております。1年間何回でもご入館いただける他、さまざまな特典もご用意しております。

年会費 ￥5,000（税込） ／ 発行から1年間有効

- 特典①** 入会から1年間、何度でもご入館いただけます。

- 特典②** ご入会時にミュージアムショップオリジナル商品をプレゼント。
(一筆箋 or はがき5枚をお選びいただけます)

- 特典③** 企画展ごとに会報「戸栗美術館だより」、入場招待券2枚、展示ご案内チラシを送付いたします。

- 特典④** 展示ごとに陶磁器の専門家による特別展示解説にご参加いただけます。
開催日時は会報でお知らせします。
(所要時間約1時間、要予約・定員制・先着順)

- 特典⑤** 会員様を含めた3名以上の団体様は、学芸員による展示解説〈ミニツアー〉を受ける事ができます。(随時予約受付、所要時間約30分)

- 特典⑥** 各展示に1回月曜休館日に開催される特別講座にご参加いただけます。
開催日時は会報でお知らせします。
(参加費1500円、所要時間約3時間半、要予約・定員制・先着順)

- 特典⑦** ミュージアムグッズを価格の1割引きでご購入いただけます。
(一部除外品あり)

- 特典⑧** 年末に当館オリジナルカレンダーをお送りいたします。

- 特典⑨** 有効期限内のご更新は、4,500円です。
(期限を過ぎてのご更新は新規ご入会と同じく5,000円となります)。